

# 令和4年（2022年）職場における熱中症による 死傷災害（休業4日以上）の発生状況（確定値）

＜神奈川県労働局＞

## 1 熱中症による死傷者数の推移

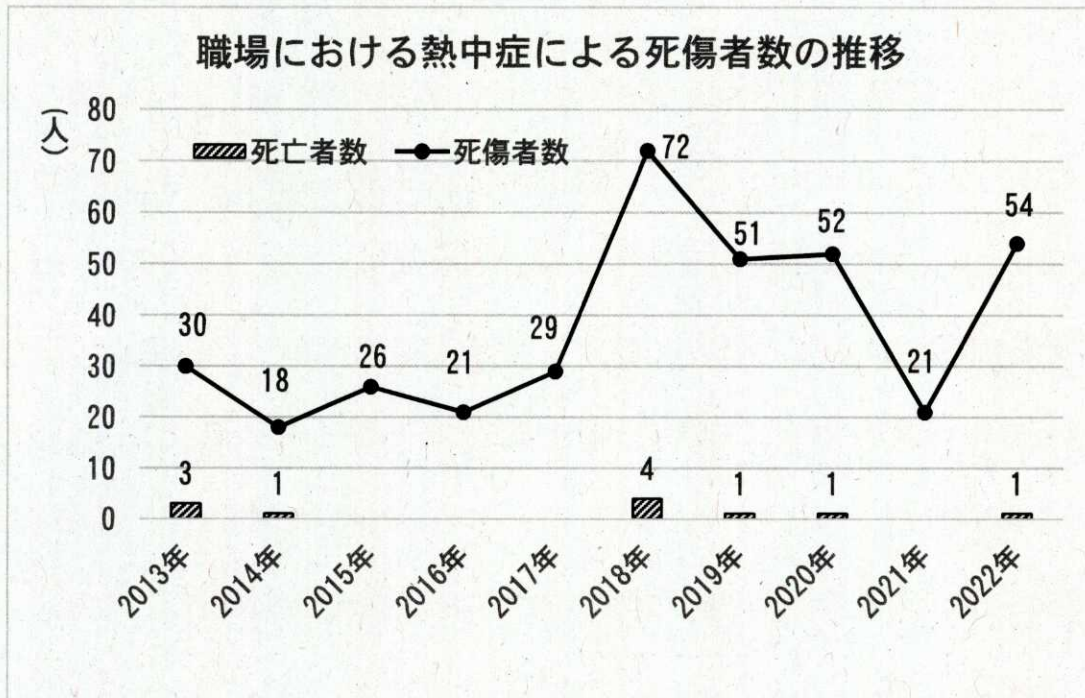
過去10年間の熱中症による死亡者及び休業4日以上の上業務上疾病者の数（以下合わせて「死傷者数」という。）は、以下のとおりである。

令和4年（2022年）の死傷者数は54人と、前年に比べ大幅に増加した。また、死亡災害も2年ぶりに発生した。

職場における熱中症による死傷者数の推移（人）

2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
30 (3)	18 (1)	26 (0)	21 (0)	29 (0)	72 (4)	51 (1)	52 (1)	21 (0)	54 (1)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。



## 2 業種別発生状況

過去5年間（2018～2022年）の業種別の熱中症の死傷者数をみると、建設業と製造業合わせて79人と全体の1/3近くを占めているものの、警備業、運送業及び商業でも死傷者は30人以上となっており、幅広い業種で多発している。

令和4年（2022年）は、警備業で12人、建設業で11人、商業で8人、製造業

及び運送業で7人等となっており、2018年以降で警備業が初めて最多となった。警備業における熱中症災害の大半は、建設工事現場での交通誘導業務におけるものであった。

また、2019年以來3年ぶりに建設業で死亡災害が発生し、過去5年間の累計で業種別では最多の3人となっている。

熱中症による死傷者数の業種別の状況（2018～2022年）（人）

	建設業	製造業	警備業	商業	運送業	接客 娯楽業	清掃・ と畜業	農業・ 水産業	その他	計
2018年	8 (1)	11 (1)	8 (0)	14 (0)	7 (0)	7 (0)	4 (0)	2 (0)	11 (2)	72 (4)
2019年	12 (1)	8 (0)	3 (0)	5 (0)	6 (0)	2 (0)	5 (0)	2 (0)	8 (0)	51 (1)
2020年	9 (0)	5 (0)	7 (0)	3 (0)	10 (0)	1 (0)	7 (1)	1 (0)	9 (0)	52 (1)
2021年	3 (0)	5 (0)	4 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	21 (0)
2022年	11 (1)	7 (0)	12 (0)	8 (0)	7 (0)	3 (0)	4 (0)	0 (0)	2 (0)	54 (1)
計	43 (3)	36 (1)	34 (0)	31 (0)	33 (0)	14 (0)	21 (1)	5 (0)	33 (2)	250 (7)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。



### 3 月・時間帯別発生状況

#### (1) 月別発生状況

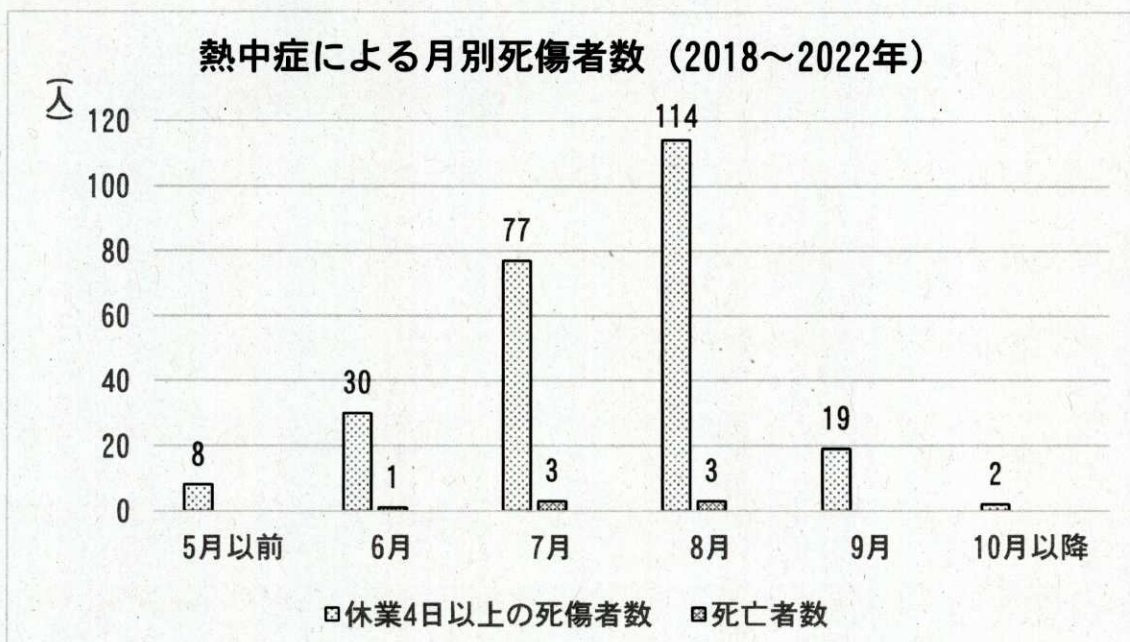
2018年以降の月別の熱中症の死傷者数をみると、全体のほぼ半数が8月に発生し、これに7月発生分を合わせると全体の3/4強となる。また、死亡災害7件のうち6件が7月と8月に集中している。

令和4年(2022年)は、6月下旬の気温の高さを受け、6月の死傷者数が17人と、8月の20人に次いで多かった。また、死亡災害も6月に発生している。発生日の最も早い災害は3月上旬で、最も遅いものは9月上旬であった。

熱中症による死傷者数の月別の状況(2018~2022年)(人)

	5月以前	6月	7月	8月	9月	10月以降	計
2018年	2 (0)	6 (0)	36 (3)	23 (1)	4 (0)	1 (0)	72 (4)
2019年	4 (0)	2 (0)	15 (0)	24 (1)	6 (0)	0 (0)	51 (1)
2020年	1 (0)	4 (0)	6 (0)	34 (1)	6 (0)	1 (0)	52 (1)
2021年	0 (0)	1 (0)	6 (0)	13 (0)	1 (0)	0 (0)	21 (0)
2022年	1 (0)	17 (1)	14 (0)	20 (0)	2 (0)	0 (0)	54 (1)
計	8 (0)	30 (1)	77 (3)	114 (3)	19 (0)	2 (0)	250 (7)

※ ( ) 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。



(2) 時間帯別発生状況

2018年以降の時間帯別の死傷者数をみると、14時台で最も多く発生し、次いで11時台となっているが、日中だけではなく9時台以前及び18時台以降にも多数発生している。日中の現場作業終了後に会社事務所に戻ってから、または、帰宅してから体調が急変・悪化したというケースも散見される。

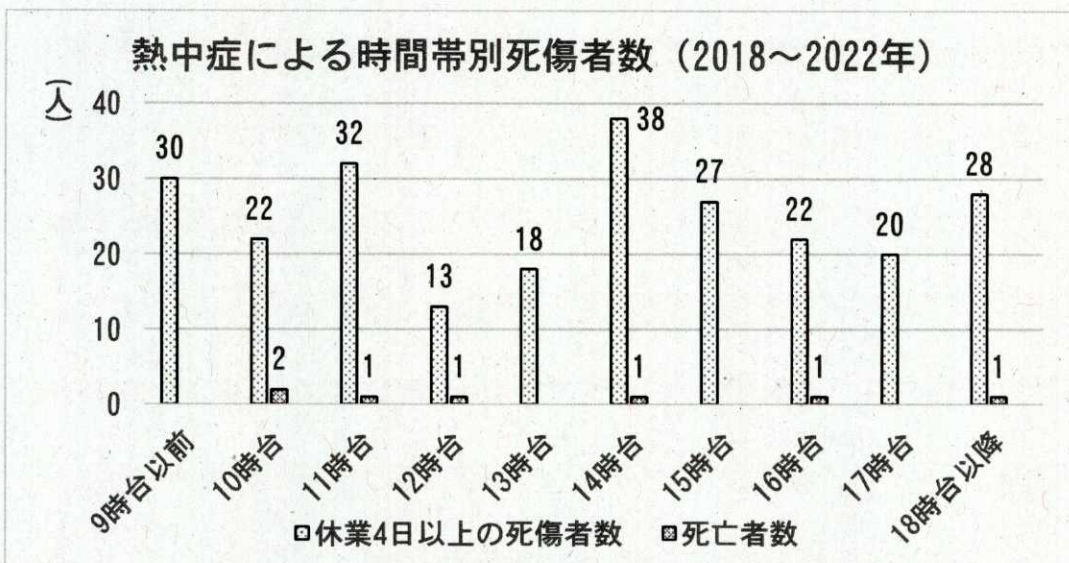
令和4年(2022年)は、9時台以前での発生が11件で最も多かったが、12時台を除き押し並べて発生している。発生時刻の最も早い災害は3時台で、最も遅いものは23時台であった。

熱中症による死傷者数の時間帯別の状況(2018~2022年)(人)

	9時 以 前 台	10 時 台	11 時 台	12 時 台	13 時 台	14 時 台	15 時 台	16 時 台	17 時 台	18 時 以 降 台	計
2018年	7 (0)	8 (1)	7 (1)	7 (1)	6 (0)	8 (0)	6 (0)	10 (1)	5 (0)	8 (0)	72 (4)
2019年	9 (0)	3 (0)	8 (0)	0 (0)	4 (0)	13 (1)	4 (0)	3 (0)	5 (0)	2 (0)	51 (1)
2020年	3 (0)	3 (0)	7 (0)	3 (0)	3 (0)	7 (0)	7 (0)	5 (0)	5 (0)	9 (1)	52 (1)
2021年	0 (0)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	21 (0)
2022年	11 (0)	5 (1)	6 (0)	0 (0)	4 (0)	10 (0)	8 (0)	2 (0)	2 (0)	6 (0)	54 (1)
計	30 (0)	22 (2)	32 (1)	13 (1)	18 (0)	38 (1)	27 (0)	22 (1)	20 (0)	28 (1)	250 (7)

※ 9時台以前は0時台~9時台、18時台以降は18時台~23時台を指す。

※ ( ) 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である。



#### 4 令和4年（2022年）の熱中症による死傷災害の特徴

##### (1) 年代別の発生状況

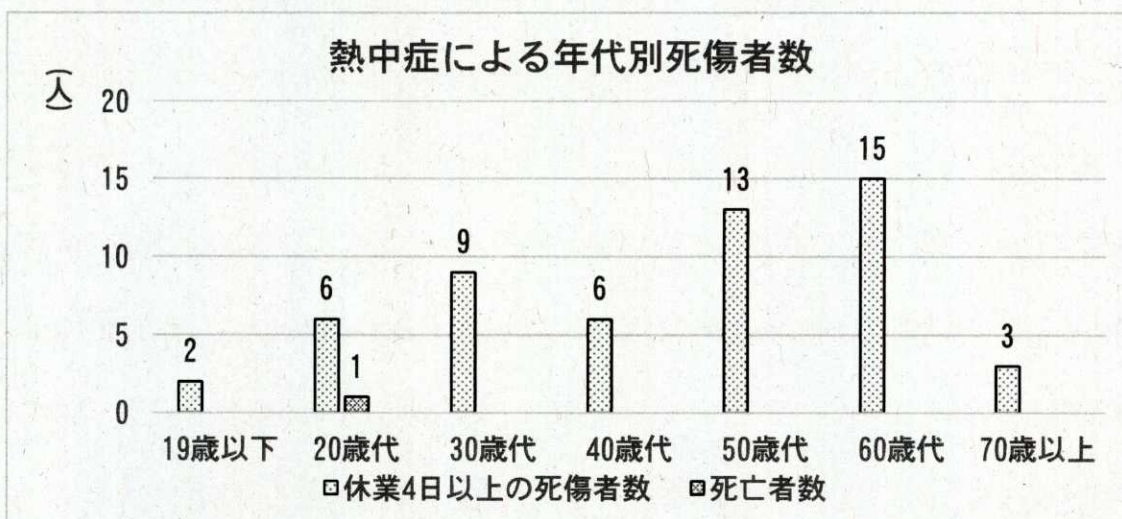
年代別の死傷者数をみると、50歳以上の被災者の割合が全体の5割を超えている状況が続いていたが、令和4年も60歳代15人、50歳代13人と突出しており、この年代で被災者全体の5割を超えていた。

一方、前年は全体に占める30歳以下の被災者の割合が14.3%であったが、令和4年は31.5%と前年の2倍以上となり、若い世代の被災者が大幅に増えた。2年ぶりに発生した死亡災害の被災者も20歳代である。

熱中症による死傷者数の年代別の状況（人）

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
死傷者数（人）	2	6(1)	9	6	13	15	3	54(1)
割合（%）	3.7	11.1	16.7	11.1	24.1	27.8	5.5	100.0

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数である



##### (2) 屋内作業での発症

熱中症にり患した時、死傷者54人のうち23人は屋内作業に従事していたものであり、全体に占める割合は4割を超えている。

製造業、商業及びビルメンテナンス業等の清掃・と畜業は屋内作業における死傷者が多い業種であるが、建設業における工事中の建屋内作業及び資材倉庫作業、運送業における庫内作業等、一般的にみると屋外作業での発症が懸念される業種でも、屋内作業において熱中症災害が多発している。

また、屋内作業においては、炉や厨房等といった特別な熱源はなくても、窓等がない、又は、あっても締め切っている等の通風が不十分で高温多湿になっていると考えられる室内環境において多発している。

こうした状況は、令和4年に限ったことではなく、熱中症予防対策は、屋内作業においてもしっかり取り組む必要がある。

5 平成30年(2018年)以降の熱中症による死亡災害の概要

番号	発生年月 発生時刻	業種 事業場規模	起因物 事故の型	発生概要
1	平成30年 7月 16時頃	その他の事業 10名~29名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	草刈りの補助業務を行っていた被災者が熱中症を発症して倒れたもの。
2	平成30年 7月 12時頃	建築工事業 ~9名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	個人住宅の2階ベランダ改修工事のために防水工事を行っていた被災者が熱中症を発症して倒れたもの。
3	平成30年 7月 10時頃	化学工業 10名~29名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	金型作業室内で作業を行っていた被災者がトイレ内で倒れているのが発見されたもの。救急搬送されたものの、死亡が確認された。(熱中症)
4	平成30年 8月 11時頃	その他の事業 ~9名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	変電設備の点検作業に従事していた被災者が変電設備の前で意識を失って倒れているのが発見されたもの。(熱中症)
5	令和元年 8月 14時頃	土木工事業 100名~299名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	土地区画整理事業造成工事において、施工管理補助業務に従事していた派遣労働者が、帰宅で利用する最寄り駅構内で倒れているのを発見されたもの。当日は気温が30度を超えており、高温環境下で測量及び巡視作業を行っていた。病院で熱中症の診断を受け、8日後に死亡したもの。
6	令和2年 8月 18時頃	清掃・と畜業 (産業廃棄物 処理業) 50名~99名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	夏休み明けの初日、焼却炉を稼働する準備作業において、高温環境下で、炉内の補修材をミキサーで練る作業をしていたところ、泡を吹いて心停止状態で倒れていたのを同僚に発見された。(熱中症)
7	令和4年 6月 10時頃	建築工事業 ~9名	高温、低温環境  高温・低温の 物との接触	2階建て木造住宅の外部足場を約1時間かけて解体後に、熱中症による体調不良となり病院へ搬送されたが、十数日後に死亡した。 発症時は気温31.7℃、湿度59パーセント(WBGT値27℃相当)であった。 被災者は入社以降の現場作業が通算3日目であった。